

診療部

診療部長 庄野弘幸

2003年は済生会みすみ病院のスタートの年であった。医師は常勤が院長を含めて外科3名、消化器1名、循環器2名、脳外科1名で、熊本病院から整形外科は(月)木の2回、米村部長、内科・泌尿器科からも応援医師を頂いた。

7月から外科が1名増員となり、10月からは神経内科として下園医師が加わって救急を含めた診療体制も充実してきた。1月には、回復期リハビリ病棟の専従医師として宮川医師も加入して2004年のステップアップに向けた準備ができつつある。

外来：診察室が4室だけであり、待ち時間を少しでも短縮するために予約診療を行い、患者さんにもほぼ浸透してきた。救急外来では約400例／月の症例を診察した。急患の約1／6が救急車で来院であり、救急搬送症例は月約70～80例であった。救急車搬送例の疾患は、整形・外傷36%、脳神経20%、消化器14%、呼吸器10%、循環器8%、泌尿器5%などであった（図1）。

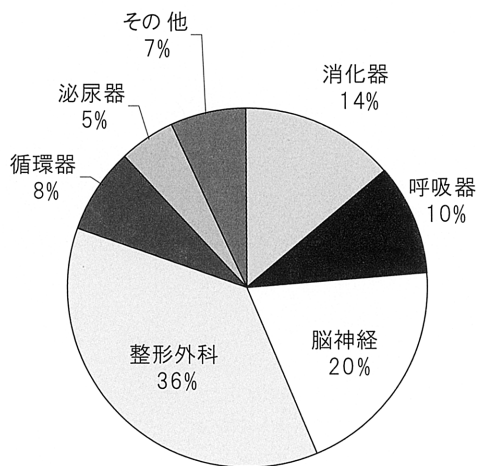


図1 救急車搬送例の疾患分類

入院：2003年度は約1,550例の入院患者があった。全入院患者の疾患内訳は、消化器・外科疾患が全体の33%、呼吸器・糖尿病などの内科疾患が16%、脳神経疾患16%、整形外科疾患15%、循環器疾患13%、泌尿器疾患5%となっていた（図2）。

入院例で残念ながら死亡された症例は99例あったが、その半数の51%が悪性腫瘍によるものであり、肺炎などの呼吸器疾患16%、脳神経疾患12%、循環器疾患10%となっていた（図3）。

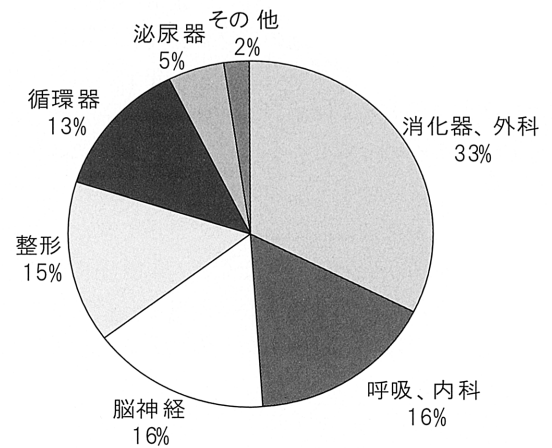


図2 全入院例の疾患分類

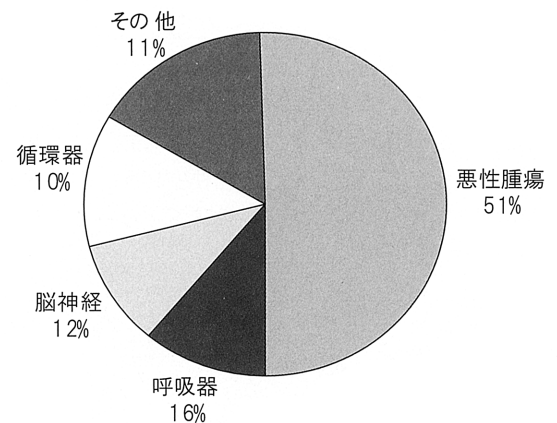


図3 入院死亡例の原因疾患分類